

学校内での国際交流の定着と問題点

— 日仏高校交流の実践とアンケート分析 —

鷺 頭 弘 子 (カリタス女子中学・高等学校)

1. はじめに

平成22年1月28日に文科省から発表された「平成20年度高等学校等における国際交流等の状況について」の項目5「生徒の外国への研修旅行（3ヶ月未満）について」によると、研修旅行生徒数は27,025人（平成18年度30,626人）と前回調査より、11.8%減少しているが、研修旅行先のフランスを見てみると、前回調査（平成18年度）に比べ、約6割増加（172人→285人）、学校数は28校から41校に増加している。下記の文科省の web でダウンロード可能である。http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/01/1289270.htm

国際化教育推進の一環として、本校で、日仏高等学校ネットワーク、コリブリによる国際交流がスタートして4年目を迎えた。このネットワークは、日仏の青少年交流が中等教育レベルでまだ十分に発展していない現状を踏まえ、2002年にフランス大使館文化部からの発案をもとに、日本でフランス語を教える日本の教育機関とフランスで日本語を教えるフランスの教育機関で組織された交換留学ネットワークである。このネットワークによる留学の最大の特徴は、フランス人高校生を受け入れた日本人生徒は、同じ期間、時期をずらして、受け入れた生徒の家にホームステイをしながら、フランスの高校に留学ができるという点だ。つまり、「受け入れ」と「留学」両方の国際交流が可能となる。

本校でも、この4年間で、短期交換留学（3週間）では、12組（24名）、長期交換留学（4～10ヶ月）では、全国で6組実施のうち4組（8名）の生徒の受け入れおよび派遣留学を行った。2009度は、インフルエンザの影響によるフランス政府からの勧告に従い、実施はされなかったが、この4年間で年間スケジュールがほぼ決まり、本校でも少しずつ定着をしてきたといえる。

本稿では、新たに「受け入れ」と「派遣留学」の両方の経験が可能となった交換留学プログラムによる国際交流を実施するにあたり、どのような課題に直面し、どのような解決策をとったか、生徒にどのような影響を与えているのか、国際交流の意義も考慮しながら、新たな交換留学のモデル作りの過程を紹介したい。

2. 本校の国際交流の形態

本校では、1999年5月に国際化教育推進委員会が発足し、主に「受け入れ」中心の国際交流を行ってきた。2001年11月～2003年にかけて、韓国の学校と本校が学校のシンボルとして人形を相手校に贈り、その人形を通して授業や放課後、学校行事などを紹介する「トラベルバディ・プロジェクト」や、高1の夏に行われる母校のルーツを辿る旅（1週間）と英語フランス語の語学研修（2週間）からなるカナダ研修（1996年から）を行っている。また、教員の学校訪問受け入れ（2000年：マレーシア・25名（JICAの招聘）、2001年：アフリカ24カ国・24名、2002年：アフリカ14カ国・26名、2004年：ネパール・20名、2004年7月：北方領土に暮らす中学生と高校生46名など）を積極的に行っている。さらに、2001年4月のオーストラリアからの長期留学生を始め、2009年までに45名以上（国籍9カ国以上）の受け入れを行っている。

3. 日仏高等学校ネットワーク・コリブリによる国際交流

3.1 カリタスでの受け入れ実績

まず、受け入れ実績を報告する。短期交換留学は、初年度（2006年度）は6名、2007年度は4名、2008年度は4名の計12名の受入れ、長期交換留学は4組8名の実績がある。（全国で6組）

短期										
年度	カミーユ・クローデル (パリ)	ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ (パリ)	ラシーヌ(パリ)	ジョルジュ・クレマンソー (ランス)	モンテベッロ (リール)	オノレ・ド・ミエ (マルセイユ)	オル・デティエンヌ (ニース)	アンペール (リヨン)	アントワーン・ワットー (ヴァランシエンヌ)	計
2006	2					1		2	1	6
2007			1	1	1	1				4
2008	1			2				1		4
長期										
2006～2007(10ヶ月ずつ)					1				1	2
2007～2008(4ヶ月ずつ)									1	1
2008～2010(4ヶ月ずつ)								1		1

3.2 日仏高等学校ネットワークによる国際交流が定着するまでの課題

「受け入れ」と「派遣留学」の両方の経験が可能であるというこのネットワークの特徴から生じる課題にどう対応策をとったかを紹介する。

3.2.1 日仏の学校暦の違いと「交換」留学による時期の問題

長期留学と短期留学があるが、以下は短期の年間スケジュールである。

月	予定
4～6月下旬	フランス側派遣留学生、日本側受入れ家庭募集・決定
7月	個人情報交換
8～10月	各家庭間でのやりとり
10月上旬	フランス人留学生受け入れ家庭対象オリエンテーション
10月下旬～11月中旬	各学校で短期留学・ホームステイ・駐日フランス大使館によるレセプション
11月中旬	アンケート実施（日仏生徒） 帰国／日本側派遣期間調整開始
～1月下旬	フライト決定
2月	派遣留学のためのオリエンテーション
3月上旬～4月初旬	フランスで短期留学・ホームステイ
4月	帰国・アンケート実施（日仏生徒）

短期留学の場合、まず、10月～11月にかけての3週間、フランスの高校生が来日し、その後3月に日本の高校生が渡仏するという年間スケジュールで動いている。これはフランス新学期が9月で、日本の新学期が4月ということと、フランスでは大学入学検定試験（バカロレア）が6月にあるということに因っている。

表を見れば一目瞭然のように、この時期をずらして行われる学校間と家庭間での交換留学という特徴から、問題となった事例がある。本校の生徒が高校1年次の2008年10月から2009年1月までの間、留学生を受け入れ、高校2年次の2009年11月から2月までフランスに留学をするという予定で長期留学が成立した。実際、受け入れは予定通り行われたが、本校の生徒の留学を前に、新型インフルエンザの影響によるフラ

ンス政府の勧告が発表され、フランスの高校が所属する地域のアカデミーの外国人留学生受け入れ許可を得る事が難しい状況になってしまった。アカデミーの許可がなければ、双方の校長同士が承諾しても留学は成立し得ない。生徒は現在高校2年生であるため、本来予定していた2009年の11月からの4ヶ月間の留学が実現できなくなり、在学中での留学が極めて難しくなった。そこで、急遽、留学時期の可能性を模索するため、コリブリ代表と本校のコリブリ担当教員、フランス語科の教員、保護者と本人が集まり、次の4つの可能性を出した。①2010年3月から4ヶ月留学し、帰国後に大学受験、②大学進学（推薦入試など）が決まった後、2010年12月から2011年3月まで、③2010年5月最初から夏休み終わりまでの4ヶ月留学、④大学進学後（2011年4月以降）。今回、幸いに、本校生徒が新型インフルエンザに罹患し、免疫ができたことから①で高校在学中に留学できることとなった。今後、世界規模の病気などの影響により、当初予定していた通りには「交換」留学が行われないことも十分ありうる。出来るだけ在学中に交換留学を実施するには、受け入れと派遣留学の実施時期の間を短く設定することが望ましいと考える。また、日仏コリブリ、国際科、教務など関係部署と密に連絡を取り合い、最善の策を検討していくことが必要である。

3. 2. 2 「交換」留学による組み合わせとパートナーとの相性の問題

原則としてパートナー交換はしない。パートナーとの関係が良好でない場合でも、次の交換留学は行われるため、次の交換留学時まで、関係修復をする必要がある。初年度に行ったアンケートに「思っていた以上に日本語が通じなく、特別日本の何に興味があるというわけでもなく、あまり日本語を積極的に学ぼうという姿勢が見られず、悩んだ。」という意見がいくつか見られた。これをふまえ、次年度には、1. フランス側のモチベーションの高い生徒の選考、2. フランス側で留学前に日本での生活についての事前指導の実施、3. 日本側で受け入れ家族対象オリエンテーションの実施、4. 留学生が登校した当日か翌日に、校則や日本での留学を成功させるためのポイントを説明、5. 駐日フランス大使館主催のレセプションで、大使館から、日本滞在中の留意すべき点についての指導をするといった対応策を講じた結果、ほとんどの問題は解決した。今後も、事前に、原則的にパートナーチェンジはないことをはっきり理解させて応募させること、受け入れ最中はコリブリ担当教員がこまめに日仏両生徒に声をかけをして様子を見ること、そして事後はアンケートから意見を汲み取り、より質の良い交換留学を目指していくことが必要であると考えられる。

3. 2. 3 加盟校と選考基準統一の問題

加盟校は、原則として日本でフランス語を教えている日本の高校とフランスで日本語を教えているフランスの高校である。現在（2010年2月15日現在）の加盟校は日本側32校、フランス側は22校である。日本側加盟校の、フランス語のレベルは様々なので（第一外国語あるいは第二外国語）統一した選考基準を実行委員会で策定することはできない。選考基準は各学校が決め、フランス語検定2級以上、校長面接、平常点+志望動機書などの選考基準を設けているところもあるが、本校では、志望動機書と仏語科教員4名による評価点で選考を行っている。前年度、3月の派遣留学を前に、他の科目が追試となり、出発時期を直前でずらさなければならなくなったという事例があったため、来年度以降の校内での選考基準を厳しくすることにしている。

3. 2. 4 安価な費用と担当教員の負担の問題

コリブリの定める憲章の条項8で、入学金と授業料は「受け入れる教育機関の入学金と授業料は免除される。所属教育機関の授業料は、各校、あるいは教育委員会等の留学規則に基づくものとする」と規定されている。つまり、渡航費や自分のお小遣いは留学生の自己負担であるが、日仏双方の家庭での入学金、授業料は学校負担、現地での生活費はホストファミリーの負担となる。もちろん、通常の留学でかかる、留学斡旋団体への支払いはいっさいない。そのため、経済的理由で留学ができなかった生徒も留学が可能となった。組み合わせや日程調整は日仏コリブリ代表間で行い、国際交流団体が行うような参加者募集、応募者の個人データ作成、生徒・保護者対象留学生受け入れオリエンテーション（受け入れ家庭の準備や心構え、出迎えと見送りの手順などの説明）、留学生へのオリエンテーション（通学経路、授業プログラム、校則等の説明）、航空券や保険手配、留学前の留学オリエンテーションなどは、加盟校の担当教員がすべて行う。当然、負担は大きいので、負担の軽減や分散が今後の課題である。また、参加校のコリブリ

担当の先生方の中には、非常勤の先生方も少なくない。学校という組織として動かないと受け入れはできないので、少しでも非常勤の先生方が動きやすいような環境を整えることが必須だ。

3. 3 生徒全体への影響

コリブリの受け入れを始めて4年間、留学生の受け入れ数はこれまで以上に増加したが、多様な国籍の留学生がいる環境は、生徒にどのような影響を与えているのだろうか。

日仏高等学校ネットワークによる4名のフランス人短期留学生を受け入れたクラス対象に行ったアンケートでは、ほとんどの生徒が留学生を好意的に受け入れて留学生と話す機会を持ち（高1：93%、高2：97%）異文化に対する興味が高まり（高1：86%、高2：80%）外国語を学ぶ上で良い刺激となった（高1：93%、高2：95%）との回答結果が得られている。

現場の教員として確実に変わったと感じることは、動機付けの方向性である。以前は教員から生徒への一方であった動機付けが、参加した生徒からクラスメイトやクラブの後輩へ「ロコミ」で広がり、語学学習のモチベーションが相乗効果で高まるという、生徒間での多方向、相互的なものになってきたということだ。また、留学生受け入れクラスの生徒全体で、留学生およびクラスメイトである受け入れ生徒を援助しようという雰囲気になり、多くの生徒たちが積極的に留学生と接することとなった。

4. 中等教育における「受け入れ」と「派遣留学」をすることの意義

国際交流の活動を通して、高校という多感な時期に、異なる文化背景をもつ同世代と交流したり、日本の他校の同世代同士の交流をしたりすることが、いかに、生徒たちの学習意欲の向上、精神的成長を促すかということを実感している。受け入れと留学の計6週間の中で、「受け入れる側」にも「受けられる側」にもなる。「相手の立場にたって考える」経験を通して、生徒たち一人ひとりが人間関係における大切なものに気づいているように思う。「その人を認めてあげること。相手をどう思うより、その人をその人として理解すること。人と人とのつき合いは、おたがい様です。それを許し合うことです。」という生徒の声は、中等教育における語学教育の目的が、単に語学力を高めるというだけでなく、「異なる文化背景の他者を認め理解する心を育む」という教育の真の目的の実現を図るものであると実感させられる。

5. 今後の課題

前述したが、各校の教員が本来国際交流団体が行う諸々の手続きを代行することで安価な留学を実現している。最大の課題である負担軽減の具体策として、各教員が今まで作成した必要資料を共有のワークスペースにアップし、必要に応じてダウンロードしたり加工して使ったり、コリブリ OBOG ネットワークを使うなど試験的実施がスタートしている。また、振り返りの手段として、初年度から発行しているコリブリ短期交換留学報告集（全日程報告、各個人の記録、研究レポート）のうち、研究レポートに関する事前指導を積極的に行うことでより充実した研究レポートの作成、教育的効果を得ることも今後の課題だと考える。参加者の卒業後の進路など、継続的に統計を取り、高大連携なども視野にいたした国際交流の可能性を模索することも必要だと考えている。まだ実際の交換留学が始まって4年という若いネットワークだが、毎年継続して実施することでそれぞれの学校に一番合う形で定着し、昨年よりも今年、今年よりも来年と問題点を少しずつ改善していく地道な努力が必要だと考えている。